



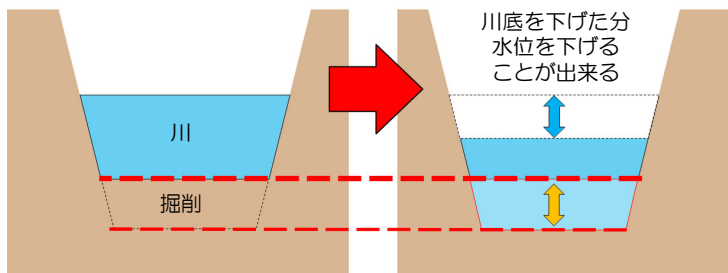
# 鈴鹿川通信

国土交通省中部地方整備局  
三重河川国道事務所  
鈴鹿川出張所  
第39号  
令和4年10月発行

## 水陸両用ブルドーザーによる河道掘削！！

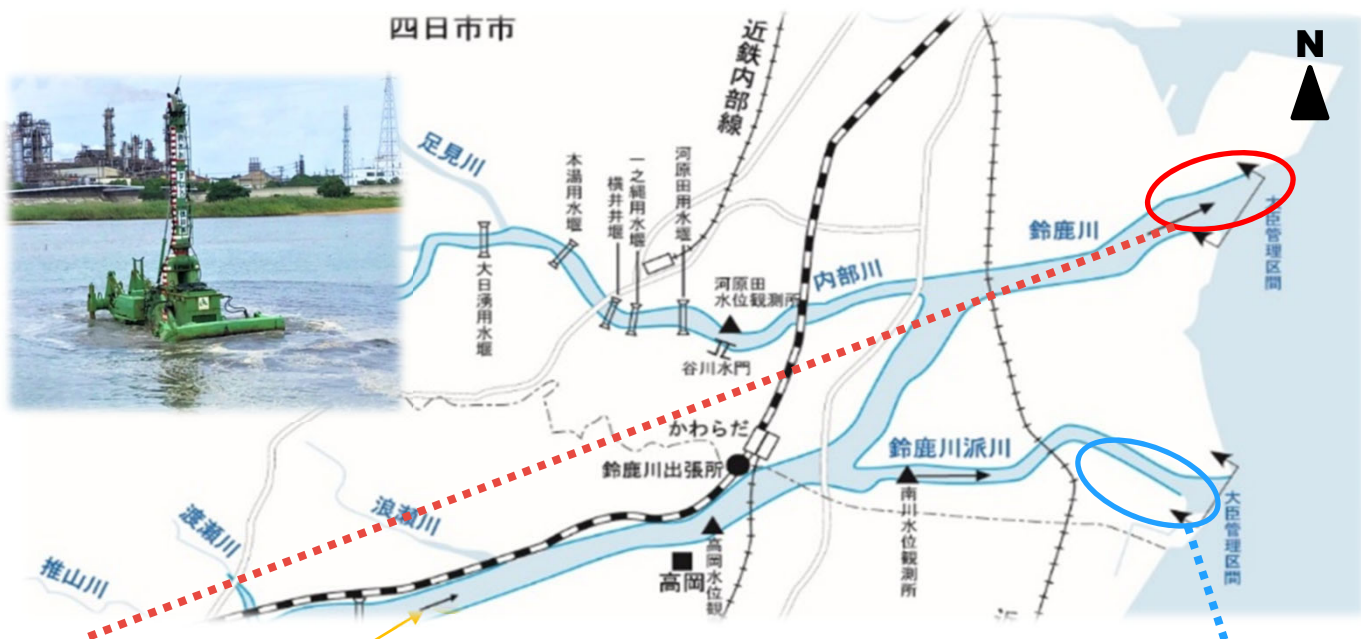
鈴鹿川出張所では、鈴鹿川が安全に流れるように河川整備を進めています。

川を安全に流す方法としては、堤防を高くする、堤防を強くする、などがありますが、「川に堆積した土砂を取り除いて、川の水位を下げることで、雨が降っても溢れにくくする」工事を「**河道掘削**」といいます。



河道掘削には通常はブルドーザーなどを使用しますが、川底など水深の深い所や川幅が広く岸から離れた場所の土砂はなかなか掘削できません。また、大雨や台風による影響もあります。

そんな懸念を解決してくれるのが、この「**水陸両用ブルドーザー**」です。水の中でもぐんぐん進んでいき土砂を掘削していくことが出来ます。11月までは鈴鹿川河口部で、12月からは鈴鹿川派川の河口部で、水陸両用ブルドーザーが活躍します。



**令和3年度 鈴鹿川下流部河道掘削工事**  
(水陸両用ブルドーザーの活躍：～11月)



**令和4年度 鈴鹿川派川河道整備工事**  
(水陸両用ブルドーザーの活躍：12月～)



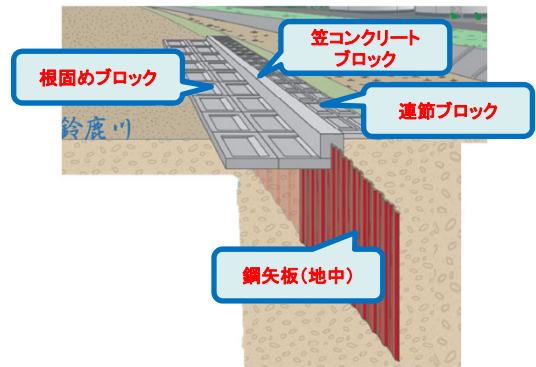
# ▲▲▲ 低水護岸を整備します！ ▲▲▲

河川が安全に流れるためには、堤防の頑強さがとても重要です。河川の水位は一定ではありませんが、常に水が流れる場所を低水路、それより一段高くなっている敷地を高水敷と言います。高水敷は常に低水路の流水や波の影響を受けているのでじわじわと削られてしまいます。そして高水敷が削られていくと堤防も脆くなってしまいます。

そこで、四日市市楠町（小倉橋付近）にて、高水敷が河川の影響で削られないように鋼矢板を地中に打ち込み整備することで堤防を頑強にする

「令和4年度 鈴鹿川護岸整備工事」

を行っています。



完成イメージ図。  
地中には鋼矢板が埋まっています。

護岸整備に先駆けて周辺の樹木伐採を実施しました。河川内で生い茂っている樹木は、洪水時など河川の流れの支障となります。また、今回のように工事を進めようとする樹木が作業の邪魔になるため適宜伐採する必要があります。

さらに、現場近辺では第二次世界大戦中に投下され爆発せずに地中に埋もれた不発弾が残っている可能性があるため不発弾磁気探査を実施しました。探査の結果、工事範囲に不発弾がないことを確認しました。引き続き安全な施工に努め工事を進めていきますので、ご理解ご協力をお願いします。

四日市市楠町  
(小倉橋付近)

R4 5月時点



伐採！



R4 8月末時点



## ●●● 配布します！ 伐採木 ●●●

上記の伐採した木を**無料配布いたします！**

伐採した木というのは通常は処分するのですが、中にはDIYや薪、工夫次第で使い道がある配布に適した伐採木もありそうです。というわけで、処分費のコスト減小（縮減）と木の有効活用を目的に鈴鹿川出張所では工事で伐採した木を不定期で無料配布しています。

詳細が決まり次第、三重河川国道事務所のTwitter (@mlit\_mie) でお知らせいたします。



Twitter @mlit\_mie



鈴鹿川出張所では引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を実施中です。在宅勤務を行っている場合もございますので、ご不便をおかけしますが来所の際には事前に連絡していただきますようご協力をお願い致します。

